

令和7年度第2回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和6年12月26日（金）午後2時00分～午後4時10分

開催場所：福知山市立図書館中央館 2階 研修室

出席委員：神谷委員、仲野委員、善積委員、塩見育委員、中井委員、西村委員、塩見建委員
高見委員、上垣委員、

欠席委員：河北委員、小林委員、芦田委員

事務局：足立館長、四方次長、塩見次長、中嶋係長

傍聴者：なし

議題：（1）令和6年度図書館年報について

（2）令和7年度 図書館事業報告（令和7年4月～12月）について

（3）「第4次福知山市子どもの読書活動推進計画」について

（4）図書館協議会委員の公募について

（5）その他

<委員長あいさつ>

<前回議事録の承認>

協議事項

1 令和6年度図書館年報について

～資料「令和6年度図書館年報」に基づき、事務局から説明～

内容：図書館年報の主な内容について

事務局

それでは、「令和6年度図書館年報」の報告をさせていただきます。事前にお送りしております、うす緑色の表紙の冊子をご覧ください。

「図書館年報」とは、図書館の沿革や資料冊数・利用状況などの各種統計、一年間の利用状況、実施した事業などをまとめ、年度ごとに発行している冊子となります。

委員の皆様には、事前に図書館年報をお送りしたところですので、主要な部分を中心に説明いたします。

表紙をめくっていただきまして、目次をご覧ください。内容は、大きく8項目となっております、「1 福知山市の概要」「2 図書館の沿革」「3 施設の概要と利用案内」「4 図書館資料の概要」「5 利用統計」「6 各種統計の推移」「7 事業報告」「8 各種指標」で構成され掲載をしております。

4ページをご覧ください。令和6年度の図書館の沿革について、掲載をしております。

令和6年度は、福知山の公立図書館が、大正13年9月に惇明小学校の一室で福知山町立図書館として開設してから100年を迎え、また、平成26年6月に中央館を現在の市民交流プラザ内に移転開館してから10年を迎えた年度でした。これを記念し令和6年の年間を通して講演会等の各種記念行事等を開催しました。

また電子図書館については、図書館流通センターの電子図書館を導入した全国355図書館のなかで、人口千人当たりの貸出数、閲覧数ともに引き続き全国1位となるなど多くの方に利用いただいております。

8ページからは「図書館資料の概要」を掲載しており、所蔵資料の数は、令和5年度の「349,821冊」に対し「5,560冊」増の「355,381冊」となっております。

14ページからは令和6年度の「利用統計」を、24ページからは令和元年度以降の「各種統計の推移」を掲載しております。

所蔵資料数は、毎年増加をしている状況にあり、入館者数は前年度を上回ったものの、貸出点数は前年度を下まわっております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響を脱したことにより利用状況は、コロナ前の水準まで戻ってきています。

26ページからは、事業報告になります。講座・講演会やおはなし会等の各種イベント、毎月の企画展示等、各館の実績を掲載しており、昨年度の委員の皆様のお名前と、活動報告として、第1回から第3回図書館協議会の協議事項も掲載いたしました。

また、31ページと32ページには、図書館開設100周年記念事業で取り組みました様々な取り組みについて掲載しております。

最終の41ページには、各種指標を載せております。

以上、令和6年度図書館年報のご報告とさせていただきます。

委 員

入館者数の傾向ですが、回復はしたが微減傾向にあるということでしたか。

事務局

入館者数自体は増えていますが、貸出冊数が減少傾向にある状態です。

委 員

貸出冊数は、1人あたりの冊数が減っているのか、入館しても借りられない方が増えているのかのでしょうか。

事務局

入館者が多いのは、勉強をしにきている学生が多くおられるのが一因と考えています。貸出冊数が減少しているのは、移転開館直後のピーク時に比べると減っているのですが、若干電子図書館の影響があるのではないかというぐらいの減り方です。

委 員

この冊数の数字は、電子図書館を含んでいないのですか。

事務局

そうです。

委 員

ということは、電子図書館とトータルで見ると増えているかもしれないですか。

事務局

トータルで見ても平成30年度まで遡ってみるとやはり減少しています。

6年度と比べるとコロナあけの4年度の方が、多かった状況で、そこから微減している状況です。

また、綾部市立図書館の移転に伴って閉館中に綾部市の方が多く来館された時期があったものが、開館に伴って元に戻られたのも減少傾向の要因としてはあると考えています。

委員

年間除籍図書というのがありますが、三和分館だけがすごく多いのですがその要因はなにですか。

事務局

除籍図書は、図書館での役目を終えて所蔵から外してしまった資料なのですが、三和分館の移転に伴って不要とした図書が多くあったものです。

2 令和7年度図書館事業報告（令和7年4月～12月）について

～資料「図書館事業概要報告（令和7年4月～令和7年12月）」に基づき、事務局から報告～

内容：おはなし会など各種事業の実施状況についての報告

委員

聞かせ屋けいたろうさんの親子で楽しむ読みきかせライブですが、大変多い人数で盛況だったという印象を持ちました。特に感じましたのは小さい子どもが、けいたろうさんが大きい本で示されるとそちらの方をさっと向いて、小さい子どもさんに対する興味の持たせ方と話術に大変感動しました。もう一つは、男性の参加が結構多かったことが意外に思いました。私たちの世代では、どうしても子ども連れの参加は母親と思ってしまいがちですが、現実を見ると父親の参加が多いことが分かりました。そしてもう一つ意見としては、最後になって参加者からけいたろうさんに対する質問コーナーなど双方向の機会があればよかったかなと思いました。

委員

移動図書館の運行について、お尋ねします。

今日、来るとき移動図書の車が止まっていまして、子ども2人とおばあちゃんが雪の中を歩いてそちらに行かれる姿を見てほほえましいなと感じたのですが、あれもグループの一つなのでしょう。

事務局

2名以上の団体で、中央館から2キロ以上、分館から1キロ以上の距離があって、運行ルートがうまく組み込めれば行かせていただいております。

委員

近所の仲間を集めてそういうことも取り組めるということなのですね。今後の参考にさせていただきます。

あと一つ、対面読書サービスなのですが、施設の方にも行かれているということですが、私事ですが、父が施設にお世話になっていて、何か私にできることはないかと思い、紙芝居を持って行って、父に読みきかせやっていたら、施設の方が、そうであれば皆さんに実施していただければと言

っていただいて、皆さんに読みきかせをした経験があるのですが、すぐそれからコロナウイルス感染症が流行しまして、途絶えてしまったのですが、私でも対面読書サービスにボランティアで参加することは可能ですか。

事務局

対面読書サービスボランティアに登録していただいています、登録をお願いできましたらうれしいです。ちょうど1月23日に対面読書ボランティアの研修会を実施予定としておりますので、是非ご参加いただければと思います。

委員

大江分館に大江中学校から職場体験に行った子が2人いたのですが、とても楽しかったと言っていました。面出しをする本を選んだり、色々な体験をさせてもらったとのことでした。中央館でももっと受入れをされてはどうですか。

事務局

職場体験をしている学校は同日で生徒を体験に行かせますので、限られた人数になると、職員が一人つきっきりになることもあり、なかなか多人数の受入れは難しい状況にあります。

委員

今年、プリンアラモードを作ろうなど「わくわくチャレンジ」が復活してとても良かったと思います。私も昔、毎回来ていましたし、今の子どもはタブレットを扱うことが多くなっていて、筆圧は弱いし、手先を動かすということが少なくなっていて、折紙を折るようなことも苦手としています。それを考えるとこのような取組は良いことだと思っています。

委員

おはなし会のところで、ミニおはなし会をゲリラ的にしましたと言われましたが、これは本を借りに来られた方達に対して、読みきかせいかがですかというように声掛けして実施されたということでしょうか。

事務局

はい。声掛けをしています。一応何冊かは用意しているのですが、たまたま選んでおられた本であるとか、希望される本を持ってきてもらったりして実施しています。

委員

おはなし会なのですが、中央館は結構な参加者があるのですが、各分館がどうしても少な目なのはどうでしょうか。

事務局

分館に来られるご家庭の場合、3歳になったらほぼ保育園に行かれるので、それまでの年齢の絶対数が少ないことがあります。また、夜久野分館についていえば、昨年度トンネルが長期間通行止めになり、そこを通って来館されていた方達が来られなくなったこともあります。

委員

ブックスタートで4か月検診時の状況を書いていただいています、今年度から10か月検診時にも月に2回行かせてもらい、こんな本もありますよと紹介させていただき取り組みも始めています。

3 「第4次福知山市子どもの読書活動推進計画」について

～資料「第4次福知山市子どもの読書活動推進計画パブリックコメント閲覧用」等に基づき、事務局から報告～

内容：第4次福知山市子どもの読書活動推進計画の策定状況

事務局

第4次福知山市子どもの読書活動推進計画の策定について説明いたします。

第3次計画が最終年度であることから、計画の見直しを行い、策定委員会で内容を検討し、第4次計画案を作成しました。

計画案についてパブリックコメントで意見を募集し、最終案をまとめて、年度内に策定する予定です。パブリックコメントは昨日25日から開始しておりまして、年明けの1月25日までの1カ月間行います。委員の皆様からもぜひ、ご意見を頂けたらと思いますので、よろしくお願いします。

計画案の内容ですが、第3次計画の基本方針や施策体系など大きなところは変更していません。特徴として、今回はじめて市内小中高校生と3から5歳児の保護者に個別アンケート調査を実施しました。

2ページにアンケートの概要を掲載しています。小中学校では学校全体で取り組んでいただき、大変貴重なデータを集めることができまして、アンケート結果を反映させています。

アンケート結果は、3ページから掲載しています。問1の読書が好きですかという問いにたいして、70%以上が好きまたはどちらかと言えば好きと回答しています。しかし、学年があがるにつれて、その割合が減少していますので、学年に応じた取り組みが必要です。

3から5歳児の保護者アンケートでは、9ページの4、読みきかせをしていますか？の問いに対して、約80%が「週に1回以上」読みきかせをしていると回答しています。しかし、問いの7では図書館のイベントに参加したことがあるかに対しては、53%が参加したことがないと回答されています。図書館利用について推進していく必要があります。

16ページからの第4章具体的方策についてです。アンケート結果を踏まえて重点的に取り組んでいくことやこれまでの取組をさらに拡充していくことなど、具体的取組について示しております。

17ページの真ん中のグラフでは、読書推進に必要なことを聞いており、家庭での読書習慣の定着が64%をしめています。

家庭での読書習慣の定着のために、さまざまな場面で啓発を行ったり、ブックリストなどを配付しています。乳幼児期から継続した取組の充実をはかっていきたいと思います。

現在としょかんだよりを年4回発行していますが、としょかんだよりは小中学生向けの内容ですので、新たに乳幼児向けのとしょかんだよりの作成をしていくことを取り入れています。

17ページの棒グラフは、小学校へ入学するまでに家で本を読んでもらったかどうかと読書が好きかどうかの回答数をクロス集計したものです。

家で本をよく読んでもらった子どもほど、読書が好きと回答しています。

このような結果からも家庭での読書習慣の定着は大切であり、妊娠期、4か月健診時でブックスタート、また10か月健診時での継続した啓発、図書館のおはなし会へつなげていけるようにしていきたいと思います。

そして、保育園・幼稚園・こども園、学校、地域と発達段階に応じた関係施設での具体的な取組を示しております。図書館へ来ない子どもへのアプローチを積極的に行う内容を示しています。特に小学生向けに実験や工作を交えた体験型のおはなし会や図書館、図書館ボランティアと連携した出張おはなし会などの館外活動など、さらに充実した取組を進めていきたいと考えております。また、計画案をご確認いただき、ご意見をお聞かせいただければと思います。

委員

なかなか表現が難しいとは思いますが、デジタル化に対する見解をどのようにまとめていかれるのか興味を持っています。現在の案で書かれているのは、全て紙の本に関することではないかと思うのですが。子どもたちが接するデジタル化。この前も通学中の子どもが学校に行く途中にこけたのですが、カバンの中身が重たそうだったのです。そういうことが、デジタル化によって解消されるのかどうなのかなと。デジタル化には光と影の部分があり、光の部分がどんどん広がって行って、影の部分がすっかり忘れ去られていくのはどうなのかと思っています。

事務局

計画の方では、電子書籍と紙の本をうまく使えるような形で、電子書籍だけではなく紙の本も大切にするような形で、第三次では記載のなかった、デジタル社会になって両方の良い所を見ながら使っていくような形で計画の方には落とし込んでおります。

委員

電子書籍の貸出冊数において、子どもが貸出を底上げしているという状況は、変わっていないですか。それから、貸出回数制限のある本を借りてすぐ返してしまうという事例の対策とかはありますか。

事務局

学校のＩＤで貸出されているのは約９０％となっております。読み放題パックを導入したことにより、すぐ返却する件数は減っていると思われます。ただ、読み放題パックの利用は貸出冊数としてはカウントされず、閲覧にカウントされており貸出冊数としては減の要因となります。ただ、読み放題パックは１冊の本に対して何人でもアクセスできるという利点があります。

委員

一つのパックに何冊分ぐらいあるのですか。

事務局

だいたい３０から４０冊程度です。現在約４６０冊が利用できます。

事務局

計画の中の落とし込みという所で、３ページで第３次計画の期間で急速にデジタル化が進んだこと、そのことをしっかりと考えていかなければならないと認識しているということを示した上で、１１ページから１２ページにかけて特にデジタルとの付き合い、学校の中でもデジタル社会に対応しながら、紙と電子の両方のメリットを活かしながら進めていく必要があることを計画の中の今後の課題と方向性として記載しております。

委員

７ページの７番のグラフを見て愕然としてしまいました。子ども達の認識が紙の本に比べて電子

の本の方がいいという割合が高いということで、学校現場でもほとんどタブレットで読んでいて、紙媒体の本を読むことがすごく減ってきて、子どもが手軽に見られるのはタブレットの本なので、それで見ている現状がこのとおり示されているなど悲しくなっていました。家庭での読書についても保護者の方も危機感を感じておられて、家庭でも読み聞かせをしなければいけない、読書ができる環境を作らなければならないという意識は高いのだと思うのですが、やはり中核になるのは学校だと思います。学校の働きかけによってずいぶん変わってくると思うのです。先ほど、電子と紙媒体の本の併用、どちらの良さも伸ばして考えていかなければいけないと言われましたが、そこが本当に重要だと思います。今も学校では毎日継続して読書活動に取り組んでいるので、そこへの切込みを、やはり電子ばかりでなく紙媒体の良さを先生自身が思っていて進められることが大切だと思います。

委員

一番電子書籍を読んでいると思われるのが3・4年生であり、サバイバルシリーズ的な絵も楽しめるもので、だんだん5・6年生になったら青い鳥文庫など冊数が20冊近くあるようなシリーズものは皆電子で読んでいます。学校でもなかなかシリーズものを購入することは難しいこともありますし。それに卒業し終わると本校の中学生たちはほとんど紙の本を読むようになり、電子書籍を読まないようになる状況です。ちゃんと学校の先生や大人が紙の本へのアプローチさえできたら中学生になると本を読む子どもほど、どこまで読んだか葉を挟めないのが嫌とか意見を聞きます。

委員

中学生になったら紙の本に戻ってくると言われたのは、学校での読書に対する取組が評価され、子どもの読書活動優秀実践校になったように取組が成功した学校ならではと思います。私もあちこちの学校に行かせてもらっていますが、学校の取組の姿勢によって子どもたちの本に対する距離感の違いが見えてきます。その距離感をできるだけ高い方にそろえて欲しいと考えています。

委員

学校の先生方も働き方改革の中で、すごく時間の制約があり、先生方もやれるならもっとしたいと思っておられるのは確かだと思います。例えば、朝のボランティアが入っていく読みかきの10分の時間でさえ、2・3分伸びても貴重な授業の時間に食い込んでしまうというように、以前のように気軽に少し伸びてもいいですかというのは厳しい雰囲気になっております。ただ、読み聞かせでボランティアが学校に入るのも地域協働の意味からも大切なことだと思いますし、実施されていない学校もあると聞きますが、できるだけそういう機会を学校でも大切にしていきたいと思っています。それは、本の良さを広めるということだけではなく、近隣の人たちとの繋がりも大事なことですし。

委員

今、学校の現状というものを色々教えていただいて、この計画自体が令和8年から令和12年までの5年間ということですが、恐らくこの先5年の間にもデジタル化を含めて世の中色々変わっていく中で、こうして計画を決めなければいけないのはすごく難しいとは思いますが、このアンケートが市民の方が思っておられることがすごくよく現れているのだと思います。私も一番下の子が高校一年生になったので、小さな子どもたちの子育てから離れて行つつある中で、9ページにご

自身は読書をされますかという保護者アンケートがあり、ほとんど読まない58パーセントとあります。家庭で親が読書をしない中で、子どもだけ読みきかせしたら本を読むかというところだと思います。次に読みきかせに参加されたことがありますかというところと半々ぐらいであり、折角機会が沢山提供されているのにもったいないなと思うのと、図書館に望むことの見解が19ページと23ページに書いてあるのですが、土日のおはなし会を増やして欲しいという見解があります。未就学児に対して平日に図書館では実施されているのだと思うのですが、年に何回かでも土日に試験的に実施してみて反応を見てもいいのではないかと思います。

それと、もう一つ気になったのが、保護者にその子その子にあった本を進めてくれる人がいるかという、親が本に関心があって司書さんとかにつながる方は良いのですが、例えば子どもが学校に行けなくなったとか、不登校の子に本を読ませたいと思ったときとかの環境の方にもおすすめの本とかも図書館だよりであるとかブックリストの中にいれてもらえたら良いのではないかと思います。また、5月ぐらいからインスタグラムを始められており、イベントとかの実施を若いお母さんたちに周知する取組を続けて行ってもらったらと思います。

3 図書館協会の委員の公募について

事務局

現在お世話になっております図書館協議会委員の皆様におかれましては、来年の5月31日までの任期となっております、公募委員としてお世話になっております委員さんにおかれましては、また3月頃に公募をさせていただきますので、是非とも応募をしていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。また、ほかの委員さんにおかれましてはなるべく継続でお世話になっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<閉会挨拶>